

2018年度
第1回 清流環境作文コンクール
受賞作品集



さくらちゃん



けん
健人くん

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会



受賞作品集

神通川清流環境賞

清流環境作文コンクール部門入選作品発刊にあたり

一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会

代表理事 高木 勲 寛

イタイイタイ病は発生から100年余になり、風化していくことが心配されます。

悲惨な出来事は一言では言い尽くせず、大変な思いのまま逝去された方々と、ご遺族のことは決して忘れてはならないことです。

また、豊かな実りをもたらした富山平野の農地も汚染されましたが、30年余りの歳月と400億円余りの大きなお金をかけ、美田が甦ったことも忘れてはならないことです。

そして、これらのことには多くの分野の方々のご支援とご協力があつて今日があります。悲惨なことを繰り返してはならない、そして神通川を再汚染させてはならないとの思いを込め、次代へ伝える手段の一つとして「神通川清流環境基金」を創設しました。その中の「清流環境作文コンクール」は感性豊かな小学生にイタイイタイ病のことや、毎日の生活の中で体験したこと、また、学校で学んだ環境のこと、命の尊さなどをいろいろな角度から見聞、体験したことを書いていただくことにしたものです。

今回、この取り組みにご賛同いただき892点もの応募がありました。ご指導された各校の校長先生はじめ多くの先生方に衷心より感謝とお礼を申し上げます。

ここに、選考委員会での協議を重ね、入選されました作品を冊子として発刊し、富山県下の全小学校へ配布することといたしました。

当協議会は、この事業を一過性のものでなく長く続け、将来を担う児童の自然や環境、命、郷土等への関心を高めることに寄与することの一助になればと考えております。今後ともご協力、ご支援たまわりますようお願いいたします。

終わりに、年末のご多用の中選考にかかわっていただいた先生方（別記）に衷心よりお礼を申し上げます。このことばといたします。

審査講評

第1回清流環境作文コンクール審査委員長

富山国際大学子ども育成学部客員教授 水上義行

第1回清流環境作文コンクール受賞者の皆さん、受賞おめでとうございます。選考委員会を代表しまして講評をさせていただきます。

今回の作文コンクール応募期間を、7月1日から10月20日にかけて設定し、富山県内全ての小学校に案内をさせていただきました。その結果、応募いただいた学校は29校に上り、応募総数892名の素晴らしい作文を届けていただきました。審査委員会といたしましては、1次から3次までの厳正な審査を行いました。審査の観点としては、次の4点を基軸に選考させていただきました。

- (A) イタイイタイ病に関する内容を含んでいるか。・・・清流環境歴史賞
- (B) 自然・環境に関する内容を含んでいるか。・・・清流環境体験賞
- (C) 生き物・命に関する内容を含んでいるか。・・・清流環境科学賞
- (D) がんばって応募してくれた学校・学級であるか。・・・清流環境奨励賞

このような観点を考慮して、審査委員会では、内容を確認しながら応募作品を(A)(B)(C)に振り分けさせていただきます。

今回受賞されたいずれの作文も、自らの調査・観察・体験に基づき、自らの生活とつながりながら、多くの人々の苦しみの克服や環境維持への努力、生命の尊さなどが取り上げられており、胸を打つ作品でありました。一つ一つの言葉は、借り物ではなく、学年に応じたその子らしい表現でまとめられ、新しい疑問・発見・感動に読み手を誘い込んでくれました。子どもの素朴な捉え方は、大人社会への警告ともなり、美しい清流を持続していくための担い手として、大きな期待を抱かせてくれました。

終わりになりますが、学校挙げて取り組んでいた皆さまや、学級賞を受賞された皆さんの清流環境へのメッセージは、未来への確かな歩みにつながるものと確信いたしました。第1回清流環境作文コンクールに、様々なご配慮を頂きました関係各位に厚く感謝を申し上げます。

◆作文コンクール受賞者一覧

清流環境体験賞						清流環境歴史賞						賞名			
中学年部門			低学年部門			高学年部門			中学年部門			低学年部門	部門		
佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	優秀賞	賞		
昇	梶本	川口	沖	田中	新川	加藤	中野	寺垣	高橋	渡邊	梶原	藤井	柳瀬	氏名	
果澄	麻央	桜來	悠花	葵	拓実	由依	茅咲	美音	歩実	捺希	悠生	亮太	里香	氏名	
高岡市立定塚小学校	射水市立大門小学校	富山市立古里小学校	高岡市立定塚小学校	富山大学人間発達科学部 附属小学校	富山大学人間発達科学部 附属小学校	射水市立小杉小学校	富山市立堀川南小学校	富山市立堀川南小学校	富山大学人間発達科学部 附属小学校	高岡市立定塚小学校	射水市立小杉小学校	砺波市立砺波東部小学校	富山大学人間発達科学部 附属小学校	小学校名	
4年	4年	4年	4年	2年	2年	2年	6年	6年	6年	4年	4年	4年	1年	学年	
ふれてみたい、きれいな川	かも川、おやじ川の川たんけん	古里にある大切な川	「仁淀ブルー」の中で	ホタルをまもろう	夏の思い出	ぼくがおどろいた川のへんか	おそろしいイタイイタイ病	過去の被害を未来でくり返さない為に	イタイイタイ病資料館を訪問したこと	「イタイイタイ病資料館」をほう問して	「無関心 きん止」	イタイイタイ病資料館を訪問して	イタイイタイびょうしりょうかんをほうもん してかんじたこと、考えたこと	題名	
38	36	34	32	30	29	28	24	22	20	18	16	14	12	10	ページ

清流環境科学賞											清流環境体験賞					
高学年部門				中学年部門				低学年部門			高学年部門					
佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞
島田 稟士	加藤 花寧	田村 妃菜	網本 帆笑	下開 百華	芝 彩心	岡田 穰二	近藤 素良	山崎 理月	三階 巧也	池内 小夏	橘 祐花	五十嵐結衣	山口 泰成	紙居 碧衣	田代 将鷹	山本 莉琉
富山市立古里小学校	富山市立堀川南小学校	富山市立山室中部小学校	富山市立堀川南小学校	小矢部市立石動小学校	高岡市立定塚小学校	富山市立神保小学校	高岡市立定塚小学校	富山市立音川小学校	富山市立古里小学校	富山市立古里小学校	富山大学人間発達科学部 附属小学校	富山市立音川小学校	富山大学人間発達科学部 附属小学校	富山市立堀川南小学校	富山市立堀川南小学校	立山町立立山中央小学校
6年	6年	6年	6年	4年	4年	4年	4年	1年	2年	1年	1年	2年	6年	6年	6年	5年
水質は、よりよい未来への第一歩	水と私たちの生活	立山の植物とライチョウを守りたい	地球温暖化について	ごみひろいをするとかかわること	生き物とすすむいろいろな場面	ツムとサム	大切な水	いきているどうぶつたち	虫となかよしなぼく	かわいいこおろぎ	おれいをしてくれた かえる	モンシロチョウ	自分自身の暮らしを振り返ることから…	ポイ捨て禁止!!	富山の宝物 くホクリクサンショウウオく	楽しい散歩
70	68	66	64	62	60	58	56	55	54	53	51	50	46	44	42	40

清流環境奨励賞 ◆学校賞・学級賞

学校賞

富山市立音川小学校

富山市立新保小学校

富山市立古里小学校

富山市立山室中部小学校

富山市立宮野小学校

富山市立堀川南小学校

射水市立大門小学校

高岡市立定塚小学校

高岡市立成美小学校

氷見市立湖南小学校

小矢部市立石動小学校

5年1組

5年2組

6年1組

5年1組

6年1組

6年4組

6年1組

6年2組

6年1組

6年2組

6年3組

4年1組

4年2組

4年3組

4年4組

4年1組

4年2組

6年1組

4年1組

5年1組

6年1組

4年1組

4年2組

学級賞

◆応募学校一覧

富山市	富山市立速星小学校	富山市立新庄北小学校	富山大学人間発達科学部附属小学校
富山市	富山市立大久保小学校	富山市立新保小学校	富山市立山室小学校
富山市	富山市立山室中部小学校	富山市立熊野小学校	富山市立音川小学校
富山市	富山市立堀川南小学校	富山市立神保小学校	富山市立鵜坂小学校
射水市	射水市立小杉小学校	射水市立太閤山小学校	射水市立歌の森小学校
射水市	射水市立大門小学校		
高岡市	高岡市立定塚小学校	高岡市立成美小学校	
氷見市	氷見市立比美乃江小学校	氷見市立湖南小学校	
小矢部市	小矢部市立大谷小学校	小矢部市立石動小学校	小矢部市立津沢小学校
砺波市	砺波市立砺波東部小学校	砺波市立出町小学校	
南砺市	南砺市立福光中部小学校		
立山町	立山町立立山中央小学校		

◆審査員一覧

水上 義行 富山国際大学子ども育成学部客員教授

仲井 文之 富山国際大学子ども育成学部教授

瀬戸 健 富山国際大学子ども育成学部教授

宮城 信 富山大学人間発達科学部准教授

鈴木 敬子 元射水市立作道小学校長

安元 恵子 元高岡市立東五位小学校長

牧野 宇子 元富山市立四方小学校長

◆後援団体一覧

富山県教育委員会

富山県小学校校長会

富山県小学校教育研究会

富山県PTA連合会



清流環境歷史賞

低学年部門

優秀賞

イタイイタイびょうしりょうかんを
ほうもんしてかんじたこと、考えた
こと

富山大学人間発達科学部附属小学校 一年

柳瀬^{やなせ} 里香^{りか}

わたしは、イタイイタイびょうはどんなびょうきか
くわしくしりたいとおもい、イタイイタイびょうし
りょうかんに行きました。

川のお水をつかってたべものをあらったり、のみ水
などにつかっていた。でもあるとき、川のお水が
白くにごってしまいました。そのときはげんいんもわ
からず、そのままつかってしまいました。わたしは、
のんだりたべものをあらいながしたりしたそこからイ
タイイタイびょうがおこるんだとおもいました。

そしてついに、イタイイタイびょうのしょうじょう
ができました。三十一〜三十三さいの女の人が多くか
かったらしいです。しょうじょうは少しでもうごくこ
ほねをおってしまったり、ほねがかるくなったり、せ
が三〇センチもちぢんだりしました。わたしは、こわ
いなく、かわいそうだな〜とおもいました。

それからげんいんは、こうざんからながれてきたカ
ドミウムというからだにわるいぶっしつだとわかりま
した。

さいばんのけっか、よごれた水をながさないようみ

低学年部門

んなでふせぐようになりました。また、カドミウムで
よごれた田んぼをきれいになおしました。そのりよ
うは小学校のグラウンドの二〇〇メートルトラック
六六〇〇こぶんでした。わたしはびっくりしました。
みんながきょうりよくしてきれいにした田んぼにか
んしゃし、しぜんをよこさず大切にしなきゃいけない
とおもいました。



* 中学年部門 *

最優秀賞

イタイイタイ病資料館を訪問して

砺波市立砺波東部小学校 四年

藤井 亮太

昔、神通川の水は人々にとって生活に必要な大切なもので、それがなぜ、みんなを苦しめることになったのか知ることができました。

神通川の上流には神岡鉦山という所があり、亜鉛を生産していました。戦争や工業の急速な発達で亜鉛が

必要になりましたが、生産をしていた時に作られるカドミウムと言う物質が神通川にすてられていました。

イタイイタイ病は、体の中にこのカドミウムが取りこまれることで骨がもろくなる病気で、昔この病気にかかってしまうと全身が痛み、少し動いただけで骨が折れてしまいました。病人やその家族がかわいそうでした。

その恐ろしい病気から人々をすくうために、萩野昇医師が立ち上がり、病気の原因がカドミウムということをつき止めました。その結果から被害者の方々がさいばんを起こし、鉦山の会社にせき任があることを認めさせることができました。すごいなと思いました。

その後、県やたくさんの方々が、広いはん囲におせんされた農地をふっ活させるために、土の入れかえを行い、現在は緑きれいな農地をとりもどすことができました。何十年にわたり、おせんした土をおせんして

いないものに入れかえることはとても大変な作業だったと思います。また、農地から農地以外の目的に使われている場所もあり、テクノホールや大型ショッピングセンター、県総合体育センターなどの場所もおせんざれていた土地だったと知ってすごくおどろきました。

日本の戦争中は、たくさんのお米の生産が必要でしたが、その生産のしかたがかんきょうへのえいきょうを無視した活動でしたことで、神通川流域のひがいをすごく大きいものにしてしまい、とてもざんねんです。

今、私たちは神通川で育ったあゆを食べ、おいしいお米を食べることができですが、そのうらにはたくさんのお米の人の努力などがあることを知りました。

ぼくは今まで、イタイイタイ病という名前は聞いたことはありませんでしたが、こんなおそろしい病気ということを知りませんでした。二度とこんなことをくり返し

てはいけないということや、川や海や山などの自然にごみをすてない、よごさないということを守って行くと思いました。もっとたくさんの人にこのイタイイタイ病のことを知ってほしいです。



* 中学年部門 *

優秀賞

『無関心 きん止』

射水市立小杉小学校 四年

梶原 かじわら
悠生 ゆうき

ぼくの家にあるリビングにはホワイトボードが置いてある。テレビと同じくらいの大きなものだ。そこには、赤い字で『無関心 きん止』と書かれている。ぼくが生まれた日にお父さんが書いたものだ。

今年の夏休みに、ぼくはお父さんにさそわれてイタイタイ病資料館に行った。イタイタイ病の発生とひ害の实たいぐというおばあさんのいたそうな顔の写真の前で、お父さんがぼくに教えてくれた。「富山県では、いたくていたくて生きるのがつらい。そんな人がいた。しかし、多くの人は、自分には関係ないことと思っていた。その原いんをつきとめたお医者さんも、有名になりたいから、勝手なことを言っているとみんなから責められた歴史があつたんだよ。」と。それを聞いて、ぼくは何だか苦しい気持ちになった。

苦しんでいる人がいる。たすけたいと思う人がいる。でも、すぐに解決しなかったのはなぜだったのか。お父さんと話していた語り部のおじさんは、「無関心、他人事と思ってしまったのが原いんの一つだと思う。」

と話していた。てん示されている当時の写真やせい約書を見ながら、「イタイイタイ病」は、みんなが自分に関係ないからいいやと思ってしまったこと、いたがっている人の声に耳をかたむけなかったこと、大きな会社だからわるくないと勝手に思いこんでしまったことなどが重なって起きたことなのではないかと感じた。

そもそも、『無関心 きん止』がわが家のルールになったのは、ぼくが右耳がなく生まれてきたからだ。ぼくの右耳は小さなヒダヒダの形で穴がふさがっているから音は聞こえない。でも左耳は大じょう夫。みんなの言っていることはちゃんと聞こえるよ。「小耳しゅう」というもので、ちりょう法もある。ふ通に生活できている。

でも、まわりの人が見た目や思いこみでぼくのことをいじめるんじゃないか。いじめをだれも止めてくれないんじゃないかとお父さんは心配したらしい。だったら自分たちは正しいことを知ろうと、ぼくが生まれた日から『無関心 きん止』がルールになった。まずは知ろうとすることから始める。始まる。それが理解の一步になる。理解できれば、たすけようとすきっかけができる。イタイイタイ病にもぼくの「小耳しゅう」にも通じることがあるんだというのが今回の大きな発見になった。

だから今日もぼくは外に出てたくさんのことを知ろうと思う。

* 中学年部門 *

佳作

「イタイイタイ病資料館」を
ほう問して

高岡市立定塚小学校 四年

わたなべ
渡邊
なつき
捺希

私は、イタイイタイ病について知らなかったの
で、イタイイタイ病資料館へ行って、イタイイタイ病に
ついて調べて来ました。

神通川は、昔から自然のめぐみをいかした農業や漁業により、人びとのくらしを豊かにしていました。しかし、明治のおわりごろから、神通川周辺だけ、川が白くにごったり、イネの育ちが悪くなったりすることがふえ、こしやかた、ひざがいたくなり、少しころんだだけですぐにこっせつしてしまう人もでてきました。かん者が「イタイ、イタイ」と泣き叫ぶことから、イタイイタイ病と名づけられたそうです。その後、原因をつきとめようと、調査や研究が始まり、神岡こう山から流れだしたカドミウムが原因と発表され、住民たちは、神岡こう山を経営していた三井金ぞくこう業に対してさいばんを起こし勝利しました。神岡こう山から排出されたカドミウムが神通川を汚染し、体内に入ったことでイタイイタイ病になってしまったので

す。かん者に対する「そんな害ばいしよう」「公害の防止」「汚染された土地のふく元」の三つについて取り決めをしました。それから、かん者さんを助けるために、「にん定」と「健こう調査」を实しました。また、水道が整ひされ、安心して水を使用することができるようになりました。住民は、毎年、神岡こう山や工場からカドミウムでよごれた水などが流れ出していないかという調査をつづけています。

私がおどろいたのは、一度こわした自然を元にもどすには、とても長い時間と人手とお金が必要だということです。発生から四十年後の平成二十四年三月に、農地を元にもどすための工事が終わり、その土地で作られた米のカドミウムのう度は、きじゅんを大きく下回ったそうです。

私は、資料館へ行って、たくさんを知ることができました。イタイイタイ病は、とてもおそろしい病気だと思いました。とてもかなしい気持ちになったので、二度とこんなことが起きてほしくありません。これ以上、イタイ思いをする人がでないように、イタイイタイ病についてたくさんの人に知ってほしいと思いました。それで、世界中の人が、水を大切にしてください。水をこわさないでほしいと思いました。

高学年部門

最優秀賞

イタイイタイ病資料館を 訪問し思ったこと

富山大学人間発達科学部附属小学校 六年

高橋 たかはし
歩実 あゆみ

私はイタイイタイ病資料館を訪問し、命の大切さや、絶対に再発させてはいけない公害病のおそろしさを知ることができました。

イタイイタイ病は、神岡鉱山から出るカドミウムが

原因で骨がもろくなる病です。このころ、川の水をそのまま生活に使っていたため、川の水にカドミウムが流れていても、知らずに飲んでいたり、その水を使って育てた米を食べた人がこの病にかかりました。私たちにとって水は日常生活に欠かせないものです。そんな水が原因で病になってしまうなんて信じられないという気持ちと同時に私たちも知らずのうちに、汚染された水を飲んでしまう危険性があるのではないかと思ひ、怖くなりました。

では、なぜ川に有害物質のカドミウムが流れたままだったのでしょうか。それは、一九五〇年ごろの時代の背景が物語っています。

このころの日本は、戦後の高度経済成長期に入り、さまざまな工業が発展していきました。実はイタイイタイ病が発覚する前、農業の不作の原因が、川の流域の工場から排出されるものに関係しているのではない

かと、神岡鉱山で亜鉛や鉛を産出している三井金属鉱業に問い質すということが何度かありました。しかし、三井金属鉱業は、ばいしょ金は払いましたが、なんの対策もしてくれませんでした。私はそれが高度経済成長期に関係しているのではと考えました。製造すれば製造しただけジャンジャンもうかる時代。カドミウムが川に流れ出すことを止めるには生産を中止しなければなりません。しかし、三井金属鉱業からしてみれば、どんどんもうかるのに、生産の中止など、もつてのほかです。それで三井金属鉱業は環境や人々の健康をないがしろにし、会社がもうけることを取ったのだと思います。

そして一九六八年ごろから一九七一年にかけて、被がいをうけた人たちと三井金属鉱業との裁判が続き、公害病と認定されました。しかし、すべてのカドミウム問題が全面解決するにはそれから四十五年もの時間

がかかりました。それだけの間、被害にあった人々は苦しみ続けたのだと、胸がしめつけられ、「何故?」「どうしてもっと早く解決しなかったの!!」と怒りがこみあげました。被害にあった人たちはもとはもどおりません。公害をおこす側も受ける側も同じ人間。何も悪いことをしたわけでもないのに、普通に生活していただけなのに、自分の知らないところでこのような怖い物質が流され被害に会うなんて恐ろしい。いや、恐ろしすぎます。二度と公害病で苦しむ人が生まれないうに、私たちが次の世代へ、そのまた次の世代へと公害病のおそろしさを語りついでいき、この公害、病が絶対に起こらないようにしていきたいと強く思いました。

高学年部門

優秀賞

過去の被害を 未来でくり返さないために

富山市立堀川南小学校 六年

寺垣^{てらがき}美音^{みお}

『イタイイタイ病』、みなさんは、この病気についてどれくらい知っていますか。授業やテレビなどによって四大公害病の一つ、ということは知っていてもくわしく知らない人が多いと思います。私も昨年、学校で

イタイイタイ病資料館に行くまでは「四大公害病の一つ、病名は聞いたことはあるけどどんな病気？」というくらいにしか思っていませんでした。

しかし、イタイイタイ病資料館でたくさんの写真やビデオなどの資料を見ていくうちに今までずっとこの富山県に住んできたのに、イタイイタイ病についてほとんど知らなかった自分はずかしくなりました。イタイイタイ病資料館では、イタイイタイ病の症状からその後の裁判まで様々なことを学ぶことができます。そこで私は、この富山で発症したこんなに恐ろしい病気のことを自分はどうして知らなかったのか疑問に思いました。それはきっと、被害者となった方々やそれを間近で見えてきた家族の方々がどんどん老いていき、亡くなってしまったため、今の若い人たちに語りつぐことが難しくなったからだと思います。だから私は、今の若い人たちがイタイイタイ病についてしっかりと

学び、その恐ろしさなどを次の世代に伝えていくことが大切だと思います。

イタイイタイ病は「いたい、いたい」と苦しんでいる様子からその名前がついたほど体中が激しく痛む病気で、初期症状で、こしや肩、ひざなどが痛くなり、病気がすすむにつれて腎臓の働きが悪くなったり少し動いただけでもすぐに骨が折れてしまったりする恐ろしい病気です。

また、周囲からの差別や偏見がひどかったこともイタイイタイ病の恐ろしいところだと思います。当時は原因不明の病気だったので「自分もなってしまうかもしれない」と考え、周囲の人たちは関わりたくなかったのだと思います。

「あそこの家の米は食べちゃいかん。」

「あそこの家の娘はもらっちゃいかん。」

など言う人が多くいたそうなので、自分たちの安全が

第一だったのだと思います。本人に傷つけるつもりが無くても、その気持ちがいづのまにか差別につながってしまっていたのだと思います。

そして私は、原因をつくった三井金属神岡鉱山と対応がくれた政府にも被害がかく大した責任があると思います。また、経済を発展させるためなら多少の被害は仕方ないと考えていたのなら大きな間違いだと思います。

このように、イタイイタイ病は恐ろしいところやひどいところがたくさんあります。今年はいタイイタイ病が公害病と認定されてから五十年を迎えた節目の年です。この先もイタイイタイ病被害の歴史が風化しないよう、また、二度と同じ過ちをくり返さないようにしていくべきだと思います。

高学年部門

優秀賞

イタイイタイ病資料館を見学して

富山市立堀川南小学校 六年

中野 なかの
茅咲 ちさき

私は、五年生のときにイタイイタイ病資料館へ見学に行きました。「カドミウム」が原因で骨がもろくなってしまう病気。たくさんの人々がこの病気に苦しんだ、ということまでは、知っていました。でも、初めて知ったこともたくさんありました。

病気にかかった人や、その家族の人たちは、周りの人から差別され、遠ざけられていたことを知ったときは、とてもびっくりしました。病気の人も、その家族も、心を痛めていた毎日は苦しかったと思います。神が通る、とされていたきれいな神通川の水を毎日生活に使っていた人たちは悲しい気持ちになったと思います。米も魚もだめになって、人も病気になって、つらい思いをすることになってしまふ、こんなに心を痛めることが続くなんで、私だったら、たえられないと思います。

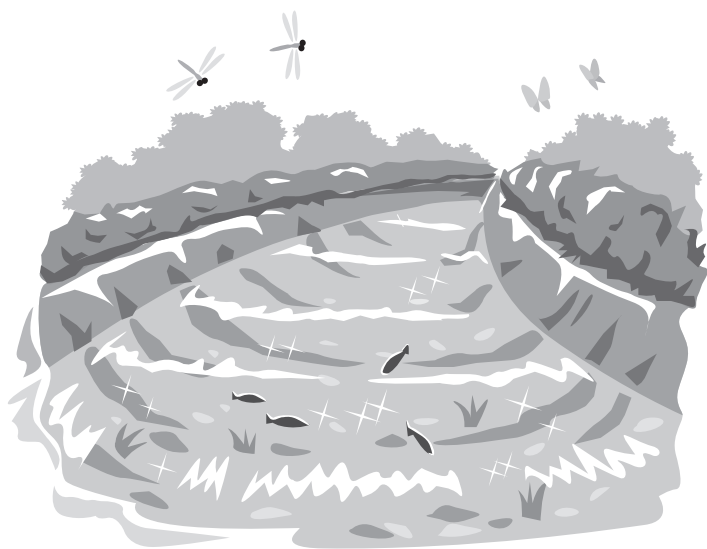
イタイイタイ病にかかっていた方の家族の人からお話をして頂いて病気の人のお世話は大変だった、と聞きました。本当に、家族みんなが大変だったんだな、と実際のお話を聞いてみて思いました。当時は、そんな人が大勢いた、と思うと、悲しい気持ちに。そして、差別があるなかで、どうやって毎日を過ごしていたん

だろう、と不思議に思いました。「不気味な病気にか
かる」といって、およめに来る人も減ってしまったそ
うです。公害病はおそろしいものだけれど、人の心に
まで大きく関わっているとは、知りませんでした。

地元の人たちが裁判をして、二回とも勝った時は、
嬉しかっただろうな、と思います。もう二度と、こん
なことは繰り返してはならないと思いました。資料館
を見学して、動けず、ねたきりの人や、体が病気で変
形した人、苦しそうな人の写真が置いてありました。
この出来事は忘れてはならないと思います。

昔の人たちの努力があったから、私たちが安心して
水を飲めるし、おいしいお米も食べることができます。
これらはすべて、カドミウムをきちんと取り除き、き
れいな水にした努力があったから、ということを知っ
た時は、本当にありがたく思いました。これからもずつ
と、きれいな水が流れる神通川であってほしいと思い

ます。



高学年部門

佳作

おそろしいイタイイタイ病

富山市立堀川南小学校 六年

加藤 由依

私は、「神様が通る」といわれた神通川で人々が苦しむ「イタイイタイ病」という腰が曲がったり足が変形したりする病気が発生し、長い間その原因がわからなかったということにすごくびっくりしました。それと同時に、おそろしいと思いました。その理由は、三

つあります。

一つ目の理由は、「イタイイタイ病」が原因で死んでいく人が出ているからです。「イタイイタイ病」の原因も分からず、いたみをじっとこらえて苦しみながらもなくなっていくという自分の目の前でそういう様子を見たら目をとじたくなるような感じがするからです。

二つ目の理由は、原因が分からないとてもおそろしい病気ということだけで、病気についてうわさしている人や「あそこへおよめに行くと、不気味な病にかかるといい、およめに来る人が少なくなるなどその地域全体にひ害が出ているということ。」「イタイイタイ病」となり毎日とても苦しい人や身の回りのお世話をして大変な人ばかりなのに、まわりの人は差別してとてもおそろしい思ったからです。

三つ目の理由は、原因が「神通川から流されてきた

カドミウム」ということです。これまで自分を苦しめてきた「イタイイタイ病」の原因がこんなにも身近なところにあるとはだれも思っていなかったと思います。とてもおそろしい病気の原因がとても近くにかくれていたと知ってみんなとてもおそろしいと思ったと思います。

原因が分かり、これまであきらめかけていた人たちが協力し裁判をおこし、全国の人たちからの応援をもらって見事公害裁判として初めてひ害住民が勝利したときは、とっても気持ち良かったと思います。裁判をしている間、周囲からは、ひ害住民に対して非難があったけど人々は、「裁判に負けたら地元に住めなくなる」という気持ちで必死に戦った姿はとてまかつこいいと思いました。

でも、裁判で勝っても過去は消すことができないと思います。「イタイイタイ病」というおそろしい病気

は十年後も二十年後も百年後も消えないし、かん者さんやその家族の苦しみ、地域の人の大変さ、つらさも消えません。なので、このような人々が苦しむことがもう二度とないように努力していきたいと思います。そして、もしまた苦しむ人々が出てきたら、私の力がとても小さくても私は、苦しむ人々のために、自分から進んで協力し、苦しむ人々を減らしていきたいです。また富山県でおきた「イタイイタイ病」をたくさんの人に知ってもらい、みんなの力で公害ひ害がない国をつくっていき、みんなが安心して住んでいけるようにしたいです。今、生きている人以外にも五年後、十年後などこれからできる新しい命にも知ってほしいです。





清流環境体験賞

低学年部門

最優秀賞

ぼくがおどろいた川のへんか

射水市立小杉小学校 二年

新川^{しんかわ} 拓実^{たくみ}

ぼくは夏休みになると、まい年同じ川でやっているしぜんかんさつ教室にさんかして、水辺の生きものについてしらべています。

きよ年は、とう明でつめたい水がぼくのこしまであって、たくさんの魚が泳いでいました。水の中にゆ

れる水草の中に、アミを入れてガサガサすると、かくれていた魚をつかまえることができました。

でも今年は、とう明だけどぬるい水で、ぼくのすねまでしかありませんでした。水草はところどころくさっていて、もがはえていました。魚もこん虫もへっいて、トミヨなどつめたい水が好きな魚は、わき水の出ているところにあつまっていました。

きよ年は、川の中を泳ぎまわっていたのに、今年は、かくれる場所もつめたい水も少なくて、すみにくいかんきょうになっていました。雨が少なくて、すごくあつい日がつづいたのがげんいんだそうです。

来年は、魚たちのすみやすい川にもどってほしいなあと思いました。ぼくは、またしぜんかんさつ教室にさんかして、この川をしらべようと思います。

低学年部門

優秀賞

夏の思い出

富山大学人間発達科学部附属小学校 二年

齊藤 温己
さいとう はるき

ぼくは、夏休みにかぞくでりよ行したかるいざわで、はじめて川あそびをしました。川に近づいていくと、さらさらと水がながれる音が聞こえました。水はすき通っていて、川の中の小石がたくさん見えました。水があさいことがわかったので、すぐに足を入れてみた

くなりました。そして、川の水へ足を入れてみると、水はとでもつめたくて足がキーンとしました。足しか水につけていないのに、どんだん体がすずしくなったような気がしました。川のまん中まで歩いてかおを上げたとき、青空がとてもきれいでした。しぜんがいっぱいの川あそびはたのしいな、と思いました。

でも、お母さんが言いました。

「川は、ルールをまもらないと、いのちまでもなくすきけんばしょになるんだよ。だから子どもだけだぜったい川へ入らないでね。」

「むかし、よごれた川の水がげんいんで、おもいびょう気にかかった人がたくさんいたんだよ。水をよごさないようにしようね。」

今年の夏のニュースでちゃ色の水が川からあふれているのを見たし、川でのじこも知りました。これからもずっと、たのしく水あそびができるために、ルールをまもって水をよごさないようにしていきたいです。

低学年部門

優秀賞

ホタルをまもろう

富山大学人間発達科学部附属小学校 二年

田中 たなか
葵 あおい

ぼくのおばあちゃんの家は、八尾のにん歩にあります。いつも、畑でおいしいやさいを作っています。畑のよこには、山からながれてくる川があります。川の水は、きれいでとてもつめたいです。

夏になると、川にホタルがあそびにきます。

にん歩川には、ヘイケボタルとゲンジボタルがいます。ホタルは、きれいな水が好きです。おばあちゃん、昔よりホタルが少なくなったと言っています。水がよごれてきたなくなったからです。川にゴミをすてるからだ。ぼくは思いました。お母さんは、だいごころのながし台から、たべものののこりがながれてよごれると言っていました。おふろやせんたくきの水も川をよごすそうです。

ぼくは、たべのこしをしないようにしたり、おふろでせっけんを、つかいすぎないようにしたいと思います。のめないジュースは買わないようにしたいと思います。ぼくは、かわいくて小さいホタルを、へらさないようにしたいです。

低学年部門

三年生の夏も、にん歩川のホタルをおばあちゃんと
いっしょに見たいです。

ぼくが大人になっても、ホタルがあそびにきてくれ
たらいいなと思います。



* 中学年部門 *

最優秀賞

「仁淀ブルー」の中で

高岡市立定塚小学校 四年

沖^{おき} 悠花^{ゆうか}

この夏私は、今まで見たこともないような青くてきれいな川に行きました。

それは、夏休みに参加したサマーキャンプでのことです。

サマーキャンプは、高知県高知市で行いました。太

平洋をのぞむ高知県は、日本海側の富山県とはちがい、空が高く明るくさわやかな印象です。

サマーキャンプでは、太平洋クルージングツアーで浜遊び、草原の中での活動、川遊びなどをしました。その中でも、川遊びは最高に楽しかったです。

川遊びの場所は、日本一の清流と言われている仁淀川です。仁淀川は水質検査全国一位になったそうです。

仁淀川の水はすき通っていて、青くてきれいです。その青さは仁淀ブルーと言われているそうです。いつかどこかで見た水晶のようにきらきらしていてきれいな川でした。

仁淀川は、川底の石の色のちがいがはっきりと分かるほどすき通っています。その川底の石もきれいなものばかりでしたので、たくさん持って帰り、後ではしおきを作りました。

川の中には、小魚がたくさん泳いでいました。あみ

* 中学年部門 *

でアユやゴリ、えびなどをかんとんにつかまえることができませんでした。今まで川遊びは何度もしたことがありますがこんなにかんとんにとれたことはありませんでした。

石集めや、魚とりのあとは、先生たちに川の中にポンと放り投げられたり、ボートに乗ってほしいというボートレースをしたり、川原でトウモロコシや川でひやしたとれたてのブドウを食べたりしました。美しいブルーの川の中で日がくれるまで思う存分楽しみました。

今年の夏は、とっても暑かったです。ニュースで、地球温だん化がすすんでいるせいだと言っています。このままでは、いつか地球がさばくになって、美しい仁淀川もなくなってしまうかもしれません。私は、思う存分川遊びできる場所がなくなってほしくありません。いつまでもきれいな川を守るように、今地球

で生きている私たちができることは何かをしっかりと考えていきたいです。

この夏の仁淀ブルーでの思い出を心にきざみ、自分ができることを一つ一つ積み重ねていきたいです。



* 中学年部門 *

優秀賞

古里にある大切な川

富山市立古里小学校 四年

川かわぐち口 桜さくら來

わたしが住んでいる古里地区には、山田川や辺呂川、藤ヶ池があります。四年生の総合的な学習の時間に実際に見学して、教えていただいたことや、体験したこと、もっと知りたいと思ったことをまとめました。

山田川には、魚道がありました。魚道とは魚の通り

道のことです。わたしは、川は水が流れる場所だと思っていたので、魚道があることにびっくりしました。そして、魚道は何のためにあるのだろうと思いました。わたしは、魚にも命があり、魚と人間がいっしょにくらしていけるように、人びとの思いやりの気持ちが込められていると思いました。また、山田川は辺呂川とつながっていて、辺呂川には、フナやドジョウなどの魚が住んでいます。山田川の魚道のおかげで、辺呂川にも魚が住んでいると思いました。実際に辺呂川を見学し、サイフォンの仕組みで水を押し上げていること、その水が田んぼや畑などに使われ、古里地区の米づくりの発展につながってくることも知ることができました。

藤ヶ池と辺呂川を見学していると、大きなちがいに気がつきました。辺呂川の川はばは、コンクリートで固められていますが、藤ヶ池にはコンクリートが全く

なく、全て土で作られているのです。ふしぎに思い、地域の方に聞いてみると、元々藤ヶ池は大きな谷だったが、田畑に使う水が不足するため、なんとかして水をためたいと考え、百人から二百人の人の力で谷を掘り、ため池を作ったのだと聞きました。たくさんの方の協力でできたこと、古里地区の農業用水をためるためにできたことなど、古里地区の住民の想いや願いが込められて作られたことを改めて知ることができました。

総合的な学習の時間を通して、古里地区にある川や池について調べることで、昔の人々の願いや想いを感じることができました。また、今では必要なときに必要な分だけ水を使うことができますが、昔は必要な水を得るために大変な工事まで行われていたことを知り、水の大切さについても学ぶことができました。これからも、わたしの住む古里地区の川を大切に、美

しい自然や水を守っていききたいと思います。



* 中学年部門 *

佳作

かも川、おやじ川の川たんけん

射水市立大門小学校 四年

梶本^{かしもと} 麻央^{まお}

わたしは、七月十二日に、かも川とおやじ川をたんけんしてきました。

かも川では、川の中に入ったら、もが、まん中の方に、たくさんありました。そのものに、たもを近づけ、魚がかくれている、もを足でふみながら、魚がにげないよ

うにして、たくさん、魚やえびがとれました。魚の種類には、「トミヨ」、「アユ」、「カジカ」などの種類の魚などが、たくさんいました。

エビの種類には、「ヌマエビ」、「ヨコエビ」がたくさんいました。エビや魚が、たくさんとれたので、たいせつに、しくしたいなあと思いました。カンなどのゴミがたくさん落ちていたので、もっと、川がよごれないように、わたしたちは、ゴミを川にすてたり、よごれることをしないようにがんばりたいです。

次に、おやじ川のけんがくへ行きました。

おやじ川では、川の水温が、十三度ぐらいでした。その川には、バイカモという花が三つのじょうけんで見えることがわかりました。一つ目のじょうけんは、水路や川、わき水のあるところ。二つ目のじょうけんは、水温が高いところでは成長せずに、水温がひくいところでは成長ができる。三つ目のじょうけんは、川

がきれいでないと生えないことが分かりました。これ
からも、バイカモがさきつづけるような川ができたら
いいなあと思いました。また、ほかの川も、バイカモ
がたくさん生えたらいいなあと思いました。ビオトー
プにも、たくさん、バイカモが生えていたので、ビオ
トープの水は、とてもきれいなつめたい水なんだなあ
と思いました。

これからは、ゴミをながしたりしないようにしたい
なあと思いました。

また、学校でそだてている魚のかんきょうをととの
えて、魚がたのしくおよいだり、元気にすごせたりで
きるように、小石やもなどを入れたりしてあげて、と
ても、すてきなかんきょうにしてあげたいなあと思
いました。



* 中学年部門 *

佳作

ふれてみたい、きれいな川

高岡市立定塚小学校 四年

昇のぼり 果澄かすみ

四年生になって「水のじゅんかん」の勉強をしました。私は今まで、川はきたないものだけ思っていたけど、じょう水場を見学して、川がないと家庭にも水がとどかないことなどを学習して、川がとても大切な役わりをしていることに初めて気付きました。その後

の夏休みに「川の環境かん察会」に参加しました。高岡市のおとぎの森公園を流れている千保川をかん察しました。

かん察会では、「水辺のすこやかさ調べ」をしました。これは、いつでもだれでもできる調査で、すこやかな水辺かどうかを「見る、聞く、においをかぐ、味わう、さわる」ではんだんをします。千保川の水をとうし度計で計ると、とてもとう明でした。また、CODという薬品で調べると全く汚れていませんでした。千保川はごみが少なく、生き物のすみかが多いことに気付きました。自然のにおいがして、植物がいっぱい生えていて、私はその川の水にふれてみたい、と心から思いました。川に入ってみるとその水は決して冷たいわけではなく、とても気持ち良かったです。また川から聞こえる自然のリズムは、とてもやさしく、おだやかな気持ちになりました。

ボランティアグループ「わの会」の方からいろいろなお話を聞きました。空からふる雪が山につきもり、雪どけ水となって一年を通して川に流れる事を「緑のダム」というそうです。私は川の水は、人がつくったダムから流れてくると思っていたのでびっくりしました。富山県の水がほうふなわけが「緑のダム」と知り、自然の力は何よりもすごい、と思いました。ボランティアの人たちは、川の調査や大切さを教える活動をしているそうです。かん察会などで何十人もの人に川の大切さを教えることで、私みたいに川が大切だと思う人がどんどんふえると思うので、ボランティアの人たちの活動はとても大切だと感じました。

学校で水のじゅんかんの学習をしたり、川の環境かん察会に参加して、川の重要さを知りました。私はこれからも、川にごみをすてない、歯みがきの時の水はコップを使うなど、身近なことから川や水を大切にし

たいです。また大人になったら、子どもたちに川の大切さをつたえたいです。そして、今のような富山県のほうふな水やきれいな川がずっとずっと未来もつづいてほしいです。



高学年部門

最優秀賞

楽しい散歩

立山町立立山中央小学校 五年

山本 莉琉
やまもと りる

わたしの家は住たく街にあります。家の前のまどからは近所の家がたくさん見えるけど、うらのまどからは立山連ぼうが見わたせます。

わたしは毎日犬の散歩をしています。散歩は田んぼや畑が広がる所を歩いています。歩いていると毎日た

くさんの生き物に出会います。今年の春にはへびが二ひきならんでニョキツと首をあげてひなたぼっこみたいにしていました。へびが苦手なお母さんは、「うわっ」

と声をあげていました。わたしもへびが苦手なのでびっくりしました。

見かけるのはへびだけではありません。太さが一センチメートルで長さが三十センチメートルぐらいある大きなミミズも見ました。大きな白い鳥が一羽で田んぼにいたり小さな白い鳥がたくさん田んぼにいたりします。カエルやトカゲも道にいます。夜はカエルが大きな声でゲロゲロと鳴いています。きっと大きなカエルが田んぼにいるんだろうな、お母さんもわたしもびっくりするから出てこないでねと思ったりします。

春から夏になるころの夜には田んぼや小さな川の近くでホタルがたくさん光っています。ホタルが光る日

数は短いので毎年ホタルが光るのを楽しみにしています。ホタルが光るのが終わったころ川のそばでは黒い羽のトンボが羽をゆっくりとじたり広げたりしながら何十ぴきとまっています。図かんで調べてみると鳥やカエルは虫を食べたり、ホタルの幼虫はミミズを食べたりするそうです。

わたしの見ている生き物は食べたり食べられたりしていることがわかりました。そしてどの生き物も水が必要なこともわかりました。わたしが散歩している所は水もきれいです。田んぼやいねや道にある草や木は気持ちの良い空気をつくってくれています。建物がいっぱいある所にお出かけした時にすう空気とちがった感じが良い空気です。わたしが気持ち良いと思うということは毎日見る生き物たちも気持ちが良いのではないかと思えます。

散歩の時にたまたま道に空きカンやおかしの入ってい

たふくろが落ちていたりします。タバコのすいからも落ちていたりします。落ちているのを見るときたないなあと思えます。でも今まではそれをそのままにしてみました。生き物のためにはゴミをそのままにしていはいけないと思うようになりました。わたしはごみぶくろを持って出かけることにしました。ごみを拾って今よりもきれいな所にしたいからです。

わたしはお母さんと犬といっしょに散歩をするのが大好きです。犬が楽しそうに鳥を追いかけたりホタルの光をきれいだねと話しながら散歩するのが楽しいからです。これからもずっと生き物を見ながら楽しい散歩ができるようにごみ拾いの他に自分には何ができるのかを考えていきたいと思えます。

高学年部門

優秀賞

富山の宝物

〜ホクリクサンシヨウウオ〜

富山市立堀川南小学校 六年

田代たしろ 将鷹まさたか

ぼくは、お父さんの会社の取り組みで、くれ羽きゅうりようにあるファミリーパークでの「ホクリクサンシヨウウオを守ろう!」という活動に家族で参加してきました。これは、「未来へ、くれ羽の里山を残して

いこう」という考えのもと、地域の小中学校や団体、施設などが集まり、ホクリクサンシヨウウオを守る活動の他、里山に関わるイベントや体験を行っているものです。

まず、ぼくがおどろいたのはホクリクサンシヨウオは地球上で、富山県と石川県の一部の地域にしか生息していない、という事です。昭和四十六年に石川県羽くい市で世界で初めて発見され、昭和五十七年には、富山市のくれ羽きゅうりようでも生息が確認されました。しかしその後、大規模な開発が行なわれ、多くのぬま地がうめ立てられ、産卵数は約三十年間で七割も減少しました。そこで、里山の再生を目指し、ホクリクサンシヨウウオがどこでどれくらいの卵を産んでいるのかを調べたり、住みやすい環境を整える活動が始まりました。

ファミリーパークに集合し、活動に入る前、水そう

に入ったホクリクサンショウウオを見せてもらいました。体長は約十センチメートルくらいで、黒くてヌルヌルしてやわらかく、目がクリクリしていました。その姿も見た時ぼくは、「この活動に参加してよかったな。ホクリクサンショウウオを守ってあげたいな。」と思いました。

次に、グループに分かれホクリクサンショウウオが産卵する場所を作るために、雑草や竹林でいっぱいのある放題のぬま地を、みんなできれいにしました。ぬま地は土がドロドロしていて水もたまっているのですが、何度も転びそうになりました。ぼくは町に住んでいるので、「近くにこんな場所があるんだな。」と思いながら、作業しました。その後、産卵するための池を作り、池に水を引くための水路を作りました。

ホクリクサンショウウオは、いつもは林の中の落ち葉や土の中で暮らしているので、めったにその姿を見

ることはできません。はんしょくのため、しっ地や池に集まり水の中に卵を産み、成体は林にもどります。卵から産まれたよう生は水の中で生活し、四〜六年くらいで大人になり陸に上がります。ファミリーパーク園内での産卵は、平成二年に初めて発見されてから、ほぼ毎年確認されています。

ぼくたちの活動は小さな取り組みかもしれませんが、でも、きれいになったぬま地を目指し、ホクリクサンショウウオがたくさん卵を産み成長し、たくさんのお生息が確認される日が来ることをぼくは見守り、活動が続けていきたいと思います。

高学年部門

佳作

ポイ捨て禁止!!

富山市立堀川南小学校 六年

紙居かみい 碧衣あおい

私は、夏休み中に、毎朝近くの公園にラジオ体操をしに行きました。家からその公園までの道は、いつもはごみが落ちていなくてきれいな道でした。

ある日、道にジュースの缶がふみつぶされて落ちていました。私はそれを見て、せっかくなきれいな道なの

に、ごみを捨てるなんてひどいなと思いました。そして、私はその缶を家に持ち帰って分別して捨てました。

ところが、次の日公園から帰ると中、前の日と、ほぼ同じ場所にまたふみつぶされたジュースの缶が落ちていました。私は前の日より、もっとひどいなと思いました。その日も缶を持ち帰りました。次の日、私は、きっとまた落ちているんだろうなと少し暗い気持ちで、いつも缶が落ちている道を通りました。でも、缶はどこにも落ちていませんでした。とてもうれしかったです。次の日も、また次の日も落ちていなくて、ものすごくうれしかったです。

それから十日ぐらいたって、忘れたころのことです。いつもの道を通ったら、またジュースの缶がふみつぶされて落ちていました。私は、やっとなくなったと思っただのにまたかといやな気持ちになりました。でも、最初の缶が落ちていた時よりは、いやな気持ちにはなり

ませんでした。なぜかという、最初の缶が落ちていた時は、毎日落ちていたのかと、勝手にがっかりしていたけれど、次に落ちていた時は、忘れるくらい日がたっていたからです。最後に缶を見つけた日から今日まで、缶が落ちているのを見ていないので、すごくうれしいです。

缶を捨てた人は分からないけど、その人が、もう二度と缶を捨てなければいいなと思います。私は、その道を、ずっとごみのない、きれいな道にしたいので、ごみや、ごみみたいな物が落ちていたら、必ず拾ってきれいな道にするよう、心がけたいです。道などに、ごみが落ちていたら、近所の人や、いい気分にはなれないので、缶の落ちていた道ではなくても、ごみが落ちていたら拾っていくようにしたいと思います。ごみが落ちていたら拾う、という習慣をつけて、その習慣を、家族や友達、近所の人などにも広めていきたいで

す。このようにみんなできれいなることを心がければ、今住んでいる町が、もっと住みやすい町になると思います。



高学年部門

佳作

自分自身の暮らしを
振り返ることから…

富山大学人間発達科学部附属小学校 六年

山口 やまぐち
泰成 たいせい

僕は将来、富山県の生活環境、自然環境を守る仕事につきたいと思っている。今問題となっている廃棄物問題に取り組んだり、イタイイタイ病などの公害が二度と起きないように防止対策に努めたり、富山県の水資

源を守りながらも、どう活かすかを考えたりなど、誰もが住みやすい美しい富山が後世に続くようにしたいというのが、僕の夢だ。

僕がそんな夢を抱くようになったのは、社会の授業で自分たちの暮らす富山県の環境について、あらゆる課題に取り組んできたことがきっかけである。受け身の授業ではなく、多くの課題を自ら一つ一つ調べ学習していくという体制は、富山をもっと知りたい！という思いと同時に、豊かな自然に恵まれたこの美しい富山の環境を守り、未来へとつなげていきたいという思いが膨らんでいった。

そして学びの中で、まず様々な環境問題を自分たちの問題として捉えるという意識改革が、必要であることに気付いた。日々の生活に不安や不自由を感じず暮らしている僕たちにとって、「環境問題」を「自分たちの問題」として捉えることは、少し難しいことかも

しれない。しかし、生活に欠かせない水が、安全な水・美味しい水であること、また食卓に並ぶ体を作っているために必要な米や魚、これらは決して当然のように得られるものではない。僕はそのことを、富山で発生したイタイタイ病に学んだ。今富山の水が美しく、豊かな大地が広がっているのは、被害に遭い苦しみながらも闘い続け、いくつもの困難をのり越え努力し続けてきた人々がいたからこそ、取り戻すことができたものなのだ。僕たちは、このことを忘れてはいけない。

僕は、環境問題を考える上で大切なこと、そして自分ができるとは何かを、再度自分自身に問いかけた。そして、第一に自分の暮らしを振り返り見直すことを試みた。我が家は夕食時に、新聞で取り上げられた環境問題について話し合ったり、環境にやさしい今日の取り組みを家族間で報告し合ったりしている。そうすることで、家族の中で色々な気付きや工夫が生まれ、

生活に無駄がなくなってきた。祖母は、畑を作っているのでコンポストに挑戦したり、野菜の皮は薄く切つて食品ロスにも気を付けている。母は、無駄な買い物をしてないように、冷蔵庫をチェックしてから出かけている。伯母は、広告紙をメモ用紙として活用し、僕はお菓子の空き箱に和紙を貼り、鉛筆立てなどの小物入れとして再利用したり、環境問題の新聞記事を切り抜き、ノートに貼り自分なりの意見をつづっている。家族四人が、環境にやさしいことは何かを自分なりに考え、取り組んでいる。

今後は、環境の知識をもっと身につけ、同じ志を持ち活動していく仲間の輪を広げていき、富山県の環境を守っていきたいと思う。





清流環境科学賞

低学年部門

最優秀賞

モンシロチョウ

富山市立音川小学校 二年

五十嵐 いがらし 結衣 ゆい

わたしは、夏休みのしゅくだいのじゆうけんきゅうで、モンシロチョウのかんさつをしました。よう虫をつかまえてきて、せい虫になるまで、えさをあげたり、おうちのおそうじをしたりしました。一か月かかりました。

よう虫のときは、まい日キャベツをあげました。体をもぞもぞうごかしながらたべていました。せい虫になる、ちょっと前は、あまりうごかなかったので、心ぱいしました。

せい虫になったモンシロチョウを見ると、そだててよかったと思いました。わたしは、家のげんかんで、「いってらっしゃい。元気でね。」と、言うてにがしました。

わたしのそだてたモンシロチョウが、いまどこでとんでいるのかたまに気になります。キャベツをあげたのに、どうして白いモンシロチョウになったのかふしぎです。

一か月間、モンシロチョウをそだてて、大きくそだてうれしいと思っし、ふしぎだなと思うこともありました。つぎも、モンシロチョウのよう虫を見つけたら、大切にそだてたいです。

低学年部門

優秀賞

おれいをしてくれた かえる

富山大学人間発達科学部附属小学校 一年

橘 たちばな
祐花 ゆうか

おばあちゃんのいえのうらには、にわとはたけがあります。にわには、まつ、つつじ、もみじ、つばき、さざんかなどの木があります。ときどき、おにいちゃ

んともみじやさざんかの木にのぼります。となりのはたけには、はるにはキャベツやえんどうができます。なつにはキュウリやトマトなどができます。あきとふゆにはだいこんやはくさいができます。わたしもくさむしりややさいとりをして、おばあちゃんのおてつだいをします。

五月のちゅうじゅんのことです。もみじの木について「イラガ」のまゆをつぶしていたら、あながあることきにぎがつかまりました。その中をのぞいてみたら、うごくものがいたので、ビックリしました。よくみてみたらかえるでした。しろくてちやいろのてんがありました。それから六月にはいってまたあなの中をみたら、おどろいたことにかえるがまだいました。五月ちゅう

じゅんからなん日たったんだろうとおもいました。木のえだをさしこんで、あなからだしてあげました。すると、くさむらのよこにいつて、「ありがとう」というようにこつちをむいていきました。たすけてあげてよかったなとおもいました。

いまもげんきでおともだちとあそんでいるといいな。またあなにはまってないといいな。



低学年部門

佳作

かわいいうおろぎ

富山市立古里小学校 一年

池内 いけうち
小夏 こなつ

がっこうのうらにあるせんぼうやまでこおろぎをつかまえました。こおろぎがそとにいるままだとしんでしまうとおもったからつかまえました。なぜしんでしまうとおもったかというとおみずがなかったからです。こおろぎにえさをあげるためにいえからなすと

きゅうりをもってきました。こおろぎがえさをたくさんたべていました。えさをたべているときこおろぎがよろこんでいるようにみえました。つかまえたつぎのひにこおろぎをみると、あかちゃんのおおろぎがおとうさんのこおろぎにたべられてしまいました。そのときはびっくりしました。

ともだちといっしょにこおろぎをかんさつできてうれしかったです。こおろぎをそだてていてわたしはかわいとおもいました。なぜならかわいからです。そだてているこおろぎにはおおきくなってほいす。こおろぎはおうちにもちかえりました。おうちでもなすときゅうりをたくさんたべているのできゅうりとなすがすきなんだとおもいました。おうちでもこおろぎをたいせつにそだてていきたいです。

低学年部門

佳作

虫となかよしなぼく

富山市立古里小学校 二年

三階 さんがい
巧也 たくや

ぼくは、虫が大すきです。おかあさんから、まい日、「たくや、またカマキリをつかまえたの。」

と、言われます。虫は、ぼくの小さな友だちです。だから、友だちにさわるのは、とてもとくいです。セミのはらは、まん中あたりが、テーブルの上のように、

すべすべしています。でも、クワガタは、なかよくしたいのに、大きなあごでゆびをはさもうとするので、むずかしいです。かっこいいクワガタにさわりたいくて、何どもがんばって、もてるようになりました。

一ばん大きな友だちはオオカマキリです。大きなかまがするどくて、とてもかっこいいです。

このあいだ、りゅうとさんから、ハラビロカマキリをもらってそだてています。とてもかっこよくて、かわいいです。それに、おとなしくて、女の人にかみません。やさしいです。ぼくは、ハラビロくとよんでいます。大こうぶつなのは、トンボとバッタです。

ハラビロくんのために、ばあちゃんのはだけで三びきずつつかまえて食べさせました。早食いのハラビロくんです。

ぼくは、ハラビロくと、もっと、もっとあそんで、なかよくなりたいたいです。

低学年部門

佳作

いきつるどぶつたち

富山市立音川小学校 一年

山崎 理月
やまざき りつき

ぼくはこうがいぐくしゅうで一ねんせいと二ねんせい
いでファミリーパークへいきました。

ぼくはそこで、もるもつとをさわりました。さわる
まえに、どぶつどぶつしてました。どうしてかというど、
もるもつとがすごくかわいかったからです。さわって

みたらふかふかであたたかかったです。ぼくは、もる
もつとがこわがらないように、たいせつにそつとさわ
りました。ちいさいけれどいきているんだなとおも
いました。

ぼくは、きりんやとらやしまうまもみました。えさ
をむしゃむしゃたべたり、ねたりしてました。しま
うまは、うんちをしていました。ぼくたちがいえにす
んでいるみたいはどうぶつは、どうぶつえんにすんで
いるんだなとおもいました。

ぼくは、どうぶつえんにいって、どうぶつもいき
るとわかりました。ぼくがすんでいるおとがわにも
たくさんはどうぶつがいます。ぼくは、どうぶつにも
とやさしくしようとおもいます。そして、なかよくし
ていきたいです。

* 中学年部門 *

最優秀賞

大切な水

高岡市立定塚小学校 四年

近藤 こんどう
素良 そら

朝起きてぼくが一番にすること。トイレをして水を流す。それから洗面所に行き、顔を水で洗う。洗面所にある洗たく機は、もうすでにジャブジャブと水の音をたてながら洗たくしている。

世界で「水不足」が問題になっているといわれている

でも、全然ピンとこない。じゃ口をひねると、きれいな水が当たり前のように出てくるぼくの今のくらしで、どうして水が大切なのか改めて考えてみたい。

地球に水はたくさんあるが、九八パーセントが海水などで、淡水は約二・五パーセント。その二・五パーセントのうちぼくたちが利用できる河川、湖、ぬまなどの水は、わずか〇・〇一パーセントしかない。水は自然の中でじゅんかんする大切なき少なしげんだ。

一日につき一人が家庭で消費する水の量は、平きん二二〇リットルにもなる。風呂が四〇パーセントで最も多く、次がトイレで二二パーセント、炊事一七パーセント、洗たく一五パーセント、洗顔などで六パーセントとなっている。日本人一人あたりの水使用量は、世界平きんの約二倍で、日本の水しげん量は、年々げん少している。しかし、水使用量は、年々増加している。ぼくが今すぐできる節水工夫は、

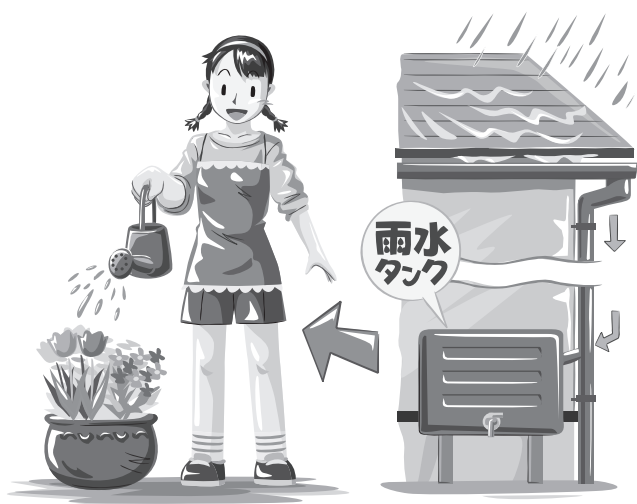
① トイレでは、大小の洗浄をきちんと使い分けると、一回あたり最大二リットル、一か月で七二〇リットル節水できる。

② 洗面所では、歯みがきするときコップで口をすすぐ。一回あたり約五・四リットル、一か月で約一二九・六リットル節水できる。

③ お風呂では、シャワーをこまめにとめて使うと、一回あたり、約八リットル、一か月で約九六〇リットル節水できる。

水を大切なしげんと意しきするだけで、日常生活の中での節水アイデアは、たくさん出てくる。できることを毎日コツコツと積み重ねることで大切な水しげんを守っていける。生活する上で必ず使わなければならない水、じゃ口をひねるとかんたんに出てくる水をあたり前のしげんと考えてはいけないと思う。自分ができる節水の一つ一つ意しきを持って取り組んでいき

たい。この意しきをぼくから家族みんなへ、学校の友だちへ、広めていけたらしょう来に予測される水不足、水ストレス回ひの力になれるかな。



* 中学年部門 *

優秀賞

ツムとサム

富山市立神保小学校 四年

岡田 穰二
おかだ じょうじ

ツムとサムは、ぼくの家の虫かごで生まれたヤモリの兄弟です。夏休みのころ、ベランダでつかまえたヤモリが、たまごを二こ産んだのです。その親ヤモリは、半年後に死んでしまいましたが、たまごをあたたためて大事に育ててきました。

親ヤモリを庭でつかまえたとき、すごく大きくて、えさになる虫をたくさん食べていたようです。ガラスまどにはりついて、明かりによってくる虫たちを、長い舌をす早くのばして食べていたのは、よく見ていました。足のきゅうばんが小さくてかわいいのに、落ちずにしがみついている様子もよく見ていました。神保地区には草むらがたくさんあり、バッタやカマキリ、トンボなどをよく見かけます。学校のグラウンドでも、ノコギリクワガタをつかまえた友達もいます。ぼくの家でも、ヤモリのえさになる虫がたくさんいるので、ヤモリも生きやすいのだと思います。

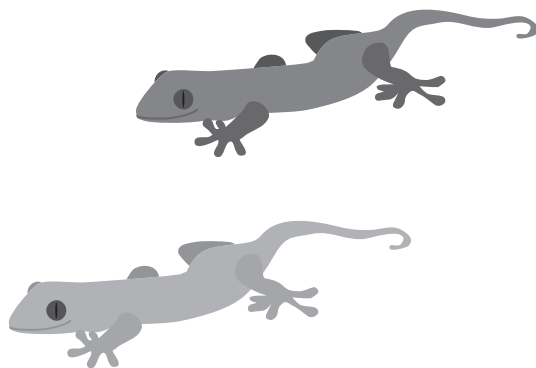
でも、ツムとサムには今は生きた虫をえさとしてやることはできないので、ミルワームという、よう虫をすりつぶしたようなものにえいようパウダーをまぜ、ゼリー状にしてやっています。ヤモリは夜行性です。しかも、活発に動き回るのでスマホで写真を撮ろうと

* 中学年部門 *

しても時間がかかります。ツムとサムも好奇心が強く、見なれない物を見ると、のってきます。わりばしや指を出すと、それにのってきます。だからとてもかわいいです。

夏休みには、ヤモリの成長日記を書きました。ヤモリのすがたがはっきりするようにサインペンでふちどりをしたり、石の下の暗がりにいるようにかげをつけたりして、絵も工夫してかきました。大事に育てていることを友達にも伝えました。ぼくの家の庭でつかまえたヤモリがたまごを生んだことにも友だちは、おどろいていましたが、その子どもを育てていることにもびっくりしていました。

ぼくは、このツムとサムを産んでくれた親ヤモリに感しゃして、おはかまいりもしています。ヤモリのえさのたくさんある神保地区だからこそツムとサムと出会えたと思っています。



* 中学年部門 *

佳作

生き物とすごすいろいろな場面

高岡市立定塚小学校 四年

芝しば 彩心あやみ

私のまわりには、生まれた時から家族に生き物がい
ます。私が小さいころは、実家に犬やねこがいました。
遊びに行くところまでかえてくれて、いっしょに
遊んだり、さん歩をしたり、かわいいし楽しいです。
でも、小さい私がこわがっていた、大きくなって一番元氣

な犬が、一番最初になくなってしまいました。いっしょ
に住んでいなかったけれど、悲しくてさみしかったで
す。今でも、楽しく遊んだことやよろこぶすがたを思
い出します。実家に新しく生き物の家族が来たけれど、
思い出の話にその犬たちも出てくるのでわすれていな
いと思うとうれしいです。

私の家でも、四年前にうさぎが家族に仲間入りしま
した。お母さんうさぎからはなれたばかりで、小さく
てかわいくて、ほわほわしていました。毎日いっしょ
にすごし、夏休みにかんさつしをして、うさぎについ
てや気持ちをとくさん知ることができたと思っています
した。少し前に元氣がなくて食よくがないので、病院
に何度も行くことがありました。原因はおく歯がのび
ていて、手じゅつが必要だと知った時はとても心配で
した。うさぎは、具合が悪くてもぎりぎりまでかくす
ことを本で読んでいたのに、気づけなくて、シヨック

でした。そして長い間いたいことを伝えられずにかわいそうだったなと思います。手じゅつの後は元気にすごしているけれど、なみだが出るのがふえたので、声で伝えられないぶん、今度こそよく見てあげようと思います。

今年の夏休みには四か月の犬も家族に仲間入りしました。うさぎとちがつて声は出せるけれど、伝えたいことがおたがいはまだ伝わらないので大変です。どうしたら伝わるか、わかってあげられるか毎日やんやん考えています。かわいいなと見ていただけの時と、いっしょにすごしていくとではだいぶちがうなと思いました。時どき会うだけだと、遊んで楽しい時間が多いです。しかし、かうとなると全てのお世話をするようになります。時にはしかってきびしくしなければいけないので大変です。外出から帰ってきた時に、毎回よろこんでくれるすがたは、とてもかわいいです。大変な

こととかわいいことをくり返ししながら、いっしょに成長して、心が通じ合えるようになっていきたいです。そして、長生きしてほしいです。



* 中学年部門 *

佳作

ごみひろいをするとかわるいよ

小矢部市立石動小学校 四年

しもひらぎ
下開 ちもか
百華

私は、夏休み前に家族で海水よくへ行つて来ました。砂浜には、流木がいっぱい落ちていて、水面にもごみがういていました。前に海に行った時はごみが少なかったのに、おかしいと思いました。

海のごみがふえると日本の動物に大きなえいきょう

をあたえるのではないかと私はとても、心配しています。

そこで、一学期にももらった、『とやま環境チャレンジ10』のしりょうを見ました。私は今、富山の海が、ごみであふれていることに、とてもショックを受けました。

海にごみがあるときがをしたり、動物にえいきょうをあたえたりと、とても問題になっています。さらに、波や海岸の砂などにぶつかって細かくくだけてしまった、プラスチック。マイクロプラスチックをえさと間違えて食べてしまう鳥や魚がいて、世界的に問題になっているそうです。

そこで、私はどうやったらごみがへるかを考えました。

まず、「海や川にごみをすてないために、ごみ箱に入れる」と、いうことです。海からごみをなくすため

には、まずごみ箱に入れて海に出るごみをへらそうと思いました。

次に「日常から出るごみをへらす」ということです。なんでもごみ箱にすると、地球温だん化が進むので、再利用可能なものはできるだけ再利用しようと思いましたが。

最後に「地域の清掃イベントに参加する」ということです。海のごみが一番へる方法はごみひろいだと思いました。積極的に清掃イベントに参加したいです。

この作文を書いて、もっと海のごみをへらそうと思いました。私は私にできることをせいっぱいやってごみ一つない富山の海をつくりたいです。



高学年部門

最優秀賞

地球温暖化について

富山市立堀川南小学校 六年

網本 あみもと
帆笑 ほえみ

私は、地球温暖化について五年生の時に勉強して、地球温暖化が進むことで、たくさんの影響があるということを学びました。

地球温暖化が進むと、海の水が増えて、陸地が減ってしまいます。南極や北極などの寒い場所や、高い山

などにある氷や氷河が溶けて、海の水が増え海の水位が上がって、低い場所にある土地や小さな島などが海にしずんでしまいます。他に、動物や植物が少なくなるといふ影響があります。寒い場所の氷が溶けてしまふと、氷の上や冷たい海で暮らしていた動物たちが生きていけなくなってしまう。すでに、ホッキョクグマは住む場所やエサが少なくなっていて、その数がかんかん減っています。そのほかに、海の水位が上がって陸が減ることで、森の木や花、森の中に住んでいた動物たちの住む場所がなくなってしまうかもしれない。他に、気候が変わって、いままで寒かったところが寒くなくなったり、暑かったところはさらに暑くなったりすることが予想されています。氷がとけたりして海が広がることで、雲ができるしくみや風の吹きかたなどが変わってしまいます。そして、大雨や洪水、台風が増えるかもしれないし、反対に、雨や雪が少な

くなる場所や砂漠になる場所が増えるともいわれています。また、地球温暖化が落雷の回数を増やすと考えられている学者さんもいるそうです。二一〇〇年までに気温が四度上がると、落雷の回数は今までの一・五倍になると予想されています。他に、気温が上がる場所が増えることで、アフリカなどの暑い地域で発生していた伝染病にかかる人が増えるかもしれないし、気候が変わることで、雨が降らなくなる場所が増えて、田んぼや畑がダメになってしまい、食べ物が少なくなってしまうです。このように地球温暖化が進むと、たくさん影響があります。

地球温暖化は、温室効果ガスが増えすぎることによって起きます。地球温暖化をとめるには、使っていない部屋の明かりをつけっぱなしにしない、冷房で冷やしすぎたり暖房で暖めすぎたりしない。シャワーなど水を出しっぱなしにしない、買い物でレジ袋をもらう

のではなくマイバックを持っていくなどをすることで地球温暖化は防ぐことができます。

地球温暖化の勉強をして、地球温暖化が進むと、たくさん影響があるので、自分でできることを進んでやって、地球温暖化を防ぎたいと思いました。



高学年部門

優秀賞

立山の植物とライチョウを 守りたい

富山市立山室中部小学校 六年

田村^{たむら} 妃菜^{ひな}

今、富山県立山では、観光客が捨てるゴミによって特別天然記念物「ライチョウ」が住みにくい環境がつかられてしまっています。

観光客のゴミによって、そのゴミを食べて命をおと

してしまうライチョウや、ゴミを食べにくるライチョウの天敵がやってきてしまい、地球温暖化とともにこのようなことがおこっています。県のボランティアでゴミ拾いの活動を行っているけれど、それでも手におえないことなんだと感じます。また、ライチョウは何もしていないのに勝手に自分たちが住む家もなくなってしまうなんて本当にかわいそうだと思います。

また、夏の立山ではライチョウのお母さんは子育てをしています。観光シーズンまっさかりの立山にはたくさんのお客さんがやって来てライチョウの親子に出会った時に大きわざして写真を撮ったり、かわいいからと追いかけたりすると、おどろいたライチョウの親子がはなればなれになってしまうことがあります。そして迷子になったライチョウのヒナは一羽では生きていけないので死んでしまいます。

問題になっていることはもう一つあります。それは

都会や町中から乗り物に乗って簡単に立山へ行けるようになったことにより、観光客のくつの裏についた雑草の種が高山こうざんに運ばれて、もともと立山に自生していなかった植物が拡散・増殖しています。私たちにもなじみのあるシロツメクサや、オオバコ、セイヨウタンポポがそうです。

北陸新幹線が開通したことや、富山に空港があることでたくさんのお客が気軽に立山の大自然にふれられるようになりました。その一方で立山の生態系がおりやかされています。私たち人間のせいでもともと立山にいた動植物の住みやすい環境をはかいしないために私たちができることは何でしょうか。

私ができることは、登山前にくつの裏の土を落とすことと、出たゴミは全て持ち帰ることです。カップラーメンの汁やジュースも捨ててはいけません。果物の皮なども土にかえるからと捨てる人もいるけれど自然に

かえらないしもと立山にはないので捨ててはいけません。しかし、以前立山に行ったときに登山道にゴミがおちているのを見ました。今思えば自分が出したゴミでなくても拾って歩けばよかったなと思います。

私たちが住む富山がほこれる立山の自然環境を守るために、できることをしていきたいと思います。また、ボランティア活動にも自分から積極的に参加したいです。

高学年部門

佳作

水と私たちの生活

富山市立堀川南小学校 六年

加藤 花寧

わたしのおじいちゃん・おばあちゃんの家には広い畑や田んぼがあり、そこでたくさん野菜や米を育てています。水やりやお世話は大変ですが、おじいちゃんたちが愛情をこめて作った野菜はとてもおいしいです。食たくの色どりとなる野菜たちは、あまり農薬を

使わずに育てているので、健康にとっても良いです。自分たちが食べる物は自分たちで作る、自給自足をしています。最近では、農作業で働く人たちがどんどん減っています。高れい化しているようですが、そうすると私たちが食べる食べ物もなくなっていき、日本は外国からの輸入品にたよってばかりになってしまっています。それを防ぐために、少しでも農作物を自分で作る人たちが増えるといいと思います。そして、おじいちゃん・おばあちゃんの家は畑、田んぼを、しょう来受けついでいきたいです。

また、そのおいしい野菜やお米を作るには、水が必要で、植物や動物、私たち人間が生きていくためには、水がなければいけません。環境をよごすと、水もよごれるので、おいしく野菜や米を育てることができなくなります。なので、私たちの食生活のためにも、環境を大切に、きれいな水を守っていかなくてはなりません。

ません。また、もし水がなくなったら、私たちは生活できません。顔を洗うとき、ご飯を作るとき、歯をみがくとき、トイレをするとき、お風呂に入るとき、洗たくをするとき、水はいろいろな場面で使っています。水は私たちの生活に欠かせませんよね？日本でもよく、台風などの災害が起こっています。そんな中でも、もし自分が被害にあい、水が使えなくなったとしたら、とても大変ですよ。私たちは日々、水に助けられています。なので、やはり環境を大切にしながら、私たちは暮らしていくべきだと思います。

そして、水を大切にするには、私たちが生活している中で、たくさん工夫をしなければならぬといけません。例えば、家族と海に行ったときは、周りに落ちているごみを拾って、自分たちが出したごみといっしょに持ち帰ったり、家では、皿洗いのときに洗ざいを使い過ぎないようにしたり、お風呂では入浴ざいを

あまり使わないようにする、などのことも、水をよごさないようにする工夫です。むずかしいことではないので、日常生活の中でどんどん実senseできると思います。他にも、水をよごさないようにするだけでなく、必要以上に使いすぎないようにすることも大切だと思います。家だけでなく、学校や、たくさん場所で水は使われます。なので、みんなで節約すればいいと思います。水の節約を広めるポスターを作ることも、地域のみんなで節約ができるので、ぜひしてみたいです。これから、環境や水を大切にして、私たち人間、そしてその他のたくさん生き物たちも住みやすくなればいいと思います。

高学年部門

佳作

水質は、よりよい未来への第一歩

富山市立古里小学校 六年

島田^{しまだ}稟士^{りんとう}

富山の川が、これからも川の水がにごっていない、きれいな状態にずっと続くこと。これは、これからの日本を左右する、とても重要なことだと思う。日本の川を守るためには、やらないことが当たり前前のポイ捨てをやめることが、美しく安全な川をつくる第一歩だ

と考える。

今年の夏、富山にたくさんさんの台風が接近した。そんなとき、気になったのは大雨だ。ぼくは、大雨がふっているとき、川の水位が気になるので、インターネットで調べている。すると、川の水質を見られるらんがあることに気付いた。見てみると、日本各地の水質が見られるようになっていた。それには、水温やCODなどのものっていた。川のごれ方によって、警報、注情報と段階が分けられていた。富山県は、すべて注情報にも達しておらず、安心した。しかし、東京の水質を見てみると、ほぼすべての川が警報レベルとなっていた。富山県でも、五十年ほど前、神岡鉦山から出された有害な物質「カドミウム」が原因の、「イタイイタイ病」が発生した。骨がもろくなり、「いたい、いたい」と言いながら死んでいく病気が広まった。これも川がよごれたことによる重い病気だ。イタイイタイ

病とつなげて考えると、東京の川もとてもよごれていることから、もしかすると水を飲んだら、イタイイタイ病のような病気が起こってしまうのではないかと心配になる。

富山の川がきれいなのは、ただ水質がよいということだけではなく、ほとんどの川は、上流に行くほどきれいである。しかし、下流に行くほどゴミが増えて、海にそれが流れついて、ゴミだらけになっている。そのことを考えると、やはり富山の川が美しいのは、人々がポイ捨てをしないというマナーを守っていることになる。ポイ捨てをしないことは、美しい川づくりに、やはり欠かせないだろう。

今の川のように、水面にごみがなく、色ににごりがない、きれいな川がずっと続いてほしい。そのためには、これからの日本を背負うべくたちが、ポイ捨てをしないことから始めてはどうだろうか。川の水がにご

らない。そして、川や海の生き物が元気に生き続けることができる川。環境はかいが起こらない、次世代につなぐ美しく安全な川をみんなで作っていききたい。



◆募集要項

★応募対象

富山県内の小学生

(イ病資料館を訪問またはイ病資料館が行う学習会に参加した県外の小学生を含む。)

★作文のテーマ

- ① イタイイタイ病資料館を訪問して感じたこと、考えたこと
- ② 住んでいる地域の環境、自然について考えたこと
- ③ 生き物とのふれあい体験
- ④ 山や河川での体験
- ⑤ 水や食の安全
- ⑥ 教科や総合的な学習の時間等で取り組んでいる環境問題
- ⑦ 個人・学校・地域で取り組んでいる環境問題
- ⑧ これ以外のテーマでも本コンクールの趣旨に沿うものであれば可とします。

★応募のきまり

- ① 応募作品の字数は以下の通りです。

小学校1・2年生	6000字以内
小学校3・4年生	10000字以内
小学校5・6年生	12000字以内

② 一人1作品とします。

③ 原稿は縦書きとし、1行目にタイトル、2、3行目に学校名、学年、氏名(ふりがな)を明記し、本文は4行目から書き始め、袋とじにしないで右肩をホッチキスでとめて下さい。

④ 応募する賞を明記する必要はありません。選考委員会適切に判断します。

⑤ 応募作品は他のコンクール等へ応募していない未発表のものに限ります。

⑥ 応募者の情報及び応募作品を主催者において自由に発表することについては承諾していただきます。

⑦ 応募は清流会館まで、郵送でお願いします。学校・学級でまとめて応募することもできます。複数名の作品を同封する場合は、応募者名の一覧(学年、題名記載)と担任・担当者のお名前を書いたものを同封してください。

⑧ 応募期間は2018年7月1日～2018年10月20日とします。

⑨ 応募作品の返却は行いません。

★賞の種類

- A) イタイイタイ病に関する内容
清流環境歴史賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- B) 自然・環境に関する内容

- 清流環境体験賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
 C) 生き物・命に関する内容
 清流環境科学賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
 D) がんばって応募してくれた学校・学級
 清流環境奨励賞

★表彰

- ① 小学校1・2年生の部(低学年)、3・4年生の部(中学年)、5・6年生の部(高学年) 毎にそれぞれの賞について、最優秀賞、優秀賞、佳作を審査します。
 ② 最優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞(図書カード1万円分)を贈ります。
 ③ 優秀賞受賞者には表彰状と副賞(図書カード5千円分)を贈ります。
 ④ 佳作受賞者には表彰状と副賞(図書カード3千円分)を贈ります。
 ⑤ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級には表彰状と盾、副賞(学校賞 図書カード3万円分、学級賞 図書カード5千円分)を贈ります。
 ⑥ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級へイタイイタイ病に関係した方々(語り部の講話等)を派遣して公害、環境教育のお役に立ちたいと思います。
 ⑦ 応募者全員に参加賞を贈ります。

★その他

- ① 表彰作品は清流環境作文コンクール選考委員会で選

考いたします。

- ② 選考結果は2019年1月上旬に発表する予定です。表彰式は2019年2月を予定しています。
 ③ 個人情報の取扱い
 応募の際に提供いただく個人情報は、下記の用途に限り使用致します。
 ・表彰が決定した場合に、当財団が外部に対して行う対象者の氏名、所属、テーマ、賞の内容の公表及びその後の各連絡、当財団が行う事業全般についてのご連絡に使用致します。
 ④ 応募者は、作品が受賞した場合に当財団が主催・共催もしくは後援する事業、当財団のホームページ及び当財団が適当と考える場所(富山県立イタイイタイ病資料館、他地域の公害資料館等)において、表彰の対象となった作品並びに執筆者の氏名及び所属を公表することについて、ご承諾をいただくものとします。また、受賞者が受賞の対象となった作品を雑誌・出版その他の方法により他に発表する場合には「一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の表彰を受けた」旨を付記いただくほか、発表がされた雑誌・出版物などを当財団宛にご提出をいただくこととします。
 ⑤ 本要項の記載内容はやむを得ず変更をする場合があります。変更をした場合は、速やかに発表いたします。

2018 年度
第 1 回 清流環境作文コンクール
受賞作品集

発行：一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

清流会館 〒 939-2723 富山市婦中町萩島 684
TEL 076-465-4811 FAX 076-465-4814

印刷：株式会社なかたに印刷

〒 939-2741 富山市婦中町中名 1554-23
TEL 076-465-2341 (代) FAX 076-465-2340

発行日：2019 年 2 月 23 日

